

雷別自然再生学習会でハルニレの播種と広葉樹の植樹



シードドラップで
ハルニレのタネ採取



採取したハルニレの
タネ播き



隼君と侑君が育てた
苗木植栽

当ふれあいセンターでは、多くの市民の参加を得ながら標茶町雷別地区国有林でトドマツ人工林が気象害により笹地化した森林の再生を行っています。

6月21日(土)、事業への理解と市民参加を呼びかけるために「雷別自然再生学習会」を開催しました。11名と参加者は少なかったのですが、これまでの学習会とは違って小学生二人連れのご家族や標茶の高校生が4名も参加してくれました。

家族で参加された標茶町のご家族から、「子供たちが雷別の近くの森林から拾ってきて自宅の庭で育てたミズナラを植樹させてもらえないか。」とのお申し出があり、いただいた11本の苗木と当センターが用意したハルニレ等の苗木と一緒に植樹しました。

ハルニレのタネ採取と播種を終えた頃から雨がぱらつき始め、植樹の途中で大粒の雨となってしまいました。降雨中、参加者の皆さんには雨合羽を着て最後まで植樹に取り組んでもらえました。

昼食後も雨は止まず、午後から予定していた森林浴をしながらの樹名板取り付け作業は中止となりましたが、バスの中から事業地近くの森林を見学しながら、森林と樹木の話をして学習会を終了しました。

ご家族で参加された方からは、「雨が降らなければ、もっと植樹したかった。子ども達も自分で育てたドングリの木が大きくなる事を楽しみにしています。」とメールをいただきました。